

2.13 モデルポートフォリオ

運用会社の統一した投資行動に不可欠な組み合わせ

モデルポートフォリオとは、運用会社が全世界の統一した基準となるポートフォリオのことです。モデルポートフォリオの細部のカスタマイズは現地のマネージャーが担当します。運用会社としての評価を安定させるためにも、モデルポートフォリオは必要です。

2.13.1 モデルポートフォリオが存在する理由

モデルポートフォリオという言葉が目論見書などに出てくる場合があります。モデルポートフォリオとは、名前のとおり、モデルとなるポートフォリオという意味です。

グローバルな規模で資産運用ビジネスを展開している運用会社は、世界各地で運用をバラバラに行っているわけではありません。運用をバラバラに行うと、運用会社としての運用スタンスに統一性がなくなりますし、人員も重複配置となりコストがかさみます。そこで、運用の拠点は数カ所に絞り込まれていることが一般的です。

そして、個別のファンドはモデルポートフォリオを複製して作成するのです。

2.13.2 チューンナップは現地のマネージャーが行う

モデルポートフォリオは、現地のマネージャーが現地の実情を考慮して修正する場合があります。例えば、日本の投資家が投資する海外債券のファンドは、円建ての債券を除くことが少なくありません。しかし、そういった場合でもモデルポートフォリオは、円建て債券を含むすべての債券を対象にして構築されます。モデルポートフォリオから、円建ての債券を

除外するという作業が残りますが、これは現地のファンドマネージャーの仕事になります。

2.13.3 運用会社の評価も関係する

運用会社の資産運用能力を測るとき、この会社が運用しているファンドAとファンドBの運用成績を個別に測定することはありません。むしろ、この運用会社の運用している日本株式ファンドを全体で評価するということが一般的です。したがって、個別のファンドがバラバラの動きをしているようでは運用会社としての評価が下がります。そういった意味からも、モデルポートフォリオは大切といえるでしょう。

図 2.11 モデルポートフォリオの位置づけ

